



防衛省東北防衛局広報紙

東北のかなめ

vol.59 (2023.1)



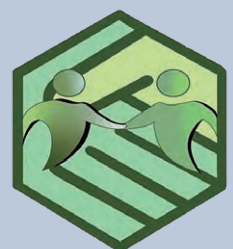
竹駒神社（宮城県岩沼市）

縦1.8メートル、横3メートル、
重さ80キロもあり、「開運招福」の
願いが込められています



【CONTENTS】

- ✓ かかし作り交流プロジェクト2022 in つがる
- ✓ トピックス
 - ・ 第42回防衛セミナー in 山形
 - ・ 日本外交協会宮城県支部定例会にて講演
 - ・ 各県知事等への令和4年版防衛白書説明
 - ・ 令和4年度在日米軍従業員永年勤続者表彰
 - ・ 防災備蓄倉庫・ヘリポート落成式(青森県つがる市)
 - ・ 東北防衛施設地方審議会開催
 - ・ 政策広報を実施
- ✓ ようこそわが街へ(第29回) ～岩手県宮古市～
- ✓ 防衛関連企業シリーズ⑫：株式会社YDKテクノロジーズ



かかし作り交流プロジェクト2022inつがる(日米交流事業)

7月7、8日、青森県つがる市において、車力小学校の児童及び米陸軍車力通信所の米軍人による日米交流事業「かかし作り交流プロジェクト2022inつがる」を行いました。

この交流は、今年で5回目となりますが、昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策を徹底するため、同じチームの児童と米軍人が別々の会場に分かれ、その間をリモート中継で結びながら日米約40名がかかし作りに取り組みました。

参加者たちは、「たくさん話をしながら作ることが出来たので、楽しかった」(児童)や「日本人の子供と交流できて、楽しむことが出来た」(米軍人)と笑顔で話していました。



「かかし」のイメージを伝える児童

完成したかかしは、つがる市内2ヶ所に展示され、地域の方々による投票の結果を受けて、9月16日、制作時と同様、リモート中継で表彰式を行いました。

金賞に輝いた作品名「Steve the Winner」を制作したチーム「仲良くエンジョイ・ハッピーチーム」の児童からは、「英語で話せるか不安だったが、お互いにアイデアを出し合って最高の思い出になった」と喜びの声があがっていました。



「かかし」を制作する米軍人



「かかし」を装飾する児童



金賞の「かかし」と米軍人



「仲良くエンジョイ・ハッピーチーム」の児童

第42回 防衛セミナーin山形

9月26日、山形テルサ(山形県山形市)において、第42回防衛セミナーを開催しました。

テレビのニュース番組等に度々登場する防衛研究所の兵頭慎治政策研究部長が「ロシアによるウクライナ侵略の衝撃」、元防衛事務次官の黒江哲郎氏(現三井住友海上保険株式会社顧問)が「日本が直面する安全保障上の課題と防衛政策の展望」と題した講演を行いました。

聴講された方々からは、「今、日本の置かれている立場、防衛のあり方を認識した」、「現在のウクライナの分析が興味深いものであった」などの感想が寄せられました。



講師を務める兵頭氏



講師を務める黒江氏



セミナーの様子

日本外交協会宮城県支部定例会にて講演

10月26日、市川道夫東北防衛局長は、一般社団法人日本外交協会宮城県支部が主催する10月定例会において、約30名の会員に対し「わが国を取り巻く安全保障環境と防衛政策」をテーマに講演を行いました。

講演は、より一層厳しさを増すわが国を取り巻く安全保障環境について、ロシアによるウクライナ侵略や3期目の習近平指導部が発足した中国の動向、北朝鮮の軍事動向などの国際情勢を中心に説明しました。

聴講された方々からは、「諸外国と共同での装備品の技術開発にはどのようなものが行われているか」等の質問がなされ、市川局長は、日米共同開発のSM-3ブロックIIAなどの具体例を提示しながら、丁寧に回答しました。



講演する局長



講演の様子

各県知事等への令和4年版防衛白書説明

令和4年版防衛白書について、8月8日、三村申吾青森県知事、9月13日、吉村美栄子山形県知事、10月25日、達増拓也岩手県知事、10月27日、池田敬之宮城県副知事、11月8日、渡辺仁福島県危機管理部長に対し、地方協力本部長等と共に、ロシアによるウクライナ侵略や米中を中心とした戦略的競争の一層の顕在化など、わが国が直面する安全保障上の課題を中心に説明を行いました。

各知事等からは、中国の軍事力強化、北朝鮮のミサイル発射などに対し、高い関心が示されました。例年、防衛白書説明は、東北防衛局、各地方協力本部、各地域事務所で実施しており、11月末までに管内に所在する262の地方公共団体等に対して説明を実施しました。



三村青森県知事



吉村山形県知事



達増岩手県知事



池田宮城県副知事



渡辺福島県危機管理部長

令和4年度在日米軍従業員永年勤続者表彰

防衛省では、長年にわたり在日米軍施設に勤務した在日米軍従業員の功績をたたえるために永年勤続者の表彰を在日米軍との共催により行っています。

11月14日、三沢市国際交流教育センター(青森県三沢市)において、令和4年度の表彰式を開催しました。

今年度、東北防衛局管内では、三沢飛行場及び八戸貯油施設に勤務する勤続40年、30年、20年及び10年を迎えた合計55名を永年勤続者として表彰しました。



答辞を述べる被表彰者(左)
 リチャード第35戦闘航空団司令官(左から3番目)
 ハックラン三沢航空基地隊司令(左から2番目)
 市川東北防衛局長(左から4番目)

式辞を述べる
市川局長

防災備蓄倉庫・ヘリポート落成式(青森県つがる市)

11月15日、青森県つがる市において、防災備蓄倉庫・ヘリポートが完成し、落成式が行われました。本施設は、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」第8条に基づく民生安定施設整備事業の救難施設として、令和2年度から整備が進められ、補助対象事業費約6億300万円のうち、補助金約4億5200万円が充てられました。

防災備蓄倉庫(S造、延べ床面積840㎡)のほか、ヘリポート(面積17,535㎡)を整備し、倉庫内には、効率的なスペースの確保と出し入れが可能となる電動ラックが設置され、今後、食料や飲料水、避難所で使用される段ボールベット等が備蓄される予定です。本施設の完成により、防災基盤の強化が図られ、住民の不安解消に繋がるものと期待されています。



防災備蓄倉庫・ヘリポート
写真提供：つがる市



電動ラック
写真提供：つがる市

東北防衛施設地方審議会開催

11月16日、令和4年度「東北防衛施設地方審議会」を開催しました。

同審議会は、自衛隊や駐留軍が使用する施設に関し、不動産権利の対価額や漁船の操業制限などによる損失の補償額などについて東北防衛局長の諮問に応じて調査・審議し、必要事項を建議する機関として同局に置かれ9人の委員で構成されています。

当日は、郡山防衛事務所において市川道夫東北防衛局長が当局の業務を紹介した後、令和4年版「防衛白書」の内容について説明、また、小山幹生郡山事務所長から、装備品等の調達業務に関する説明を行いました。

その後、陸上自衛隊郡山駐屯地(福島県郡山市)及び藤倉航装株式会社(福島県田村市)※の視察を行い、防衛施設や防衛産業について理解を深めていただきました。



郡山駐屯地視察
写真提供：郡山駐屯地



審議会の様子

※藤倉航装株式会社：パラシュートや救命胴衣の開発・製造



国指定名勝「浄土ヶ浜」に 新たな遊覧船が就航しました！



宮古
うみねこ丸

宮古市遊覧船「宮古うみねこ丸」 出崎埠頭発着所・浄土ヶ浜発着所
TEL0193-65-8856(岩手県北自動車㈱宮古遊覧船事業部)

チケット販売 道の駅・みなとオアシスみやこ(シートピアなど)・浄土ヶ浜



【遊覧船が運航開始】

宮古市の新たな遊覧船「うみねこ丸」が、令和4年7月に就航しました。船体は、横波に強い双胴船で、バリアフリー設計です。展望デッキでは、美しい宮古の海岸線を360度のパノラマビューでお楽しみいただけるほか、三陸ジオパーク・ジオサイトをガイドの解説付きで巡ることができます。



【ジオサイト「浄土ヶ浜」】

太古からの人と自然の営みが体感できるジオパーク。ダイナミックな自然景観をはじめ、豊かな食文化、伝統芸能など多彩な歴史を背景に豊かな営みが広がっています。

中でも「浄土ヶ浜」は、「ながら浄土のごとし」と評される、白い岩肌に松の緑のコントラストが美しい、宮古を代表する景勝地です。

平成24年、国の名勝に指定されました。



【浄土ヶ浜エターナルグリーン】

一般社団法人日本地域色協会の取組である「いわてのいいイロ発信プロジェクト」で、浄土ヶ浜を応援する地域色として「浄土ヶ浜エターナルグリーン」が登録されました。自然が作り上げた「浄土ヶ浜エターナルグリーン」は、良き時も試練の時も共にあった市民の心の拠りどころとして、人々の想いを未来へとつなぐ色となります。



【津波避難訓練を実施】

遊覧船が発着する出崎埠頭で、令和4年8月に津波避難訓練を実施し、漁協ビル高台への避難を確認しました。



岩手県 宮古市
Miyako City
Iwate, Japan

浄土ヶ浜
エターナル
グリーン

浄土ヶ浜
いいイロ
1116

株式会社YDKテクノロジーズ(本社：東京都渋谷区 設立：昭和35年)は、防衛関連機器、環境計測機器、航海機器、航空・燃料機器開発・製造および販売を行っています。

岩手県盛岡市にある盛岡事業所では、防衛省向けとして、艦艇用ジャイロコンパス、電気式舵制御装置(オートパイロット)、電磁ログ等を納入しています。

今回は、岩田国雄盛岡事業所長、佐々木和幸課長にお話を伺いました。

Q1： 盛岡事業所では、どのような製品を生産しているのですか。

A1： 航海事業の製品の開発・生産を行っており、ジャイロコンパス(船首方位を検出する機器)、電磁ログ(船速や航程を表示するための機器)、オートパイロット(自動操舵装置)が主な製品です。国内の大型船の約44%に当社の製品が使用されています。

Q2： 開発から生産まで行っているのですね。

A2： 「鋳造→機械加工→化学処理・塗装→組立→検査」と一貫生産体制となっています。また、当事業所は、研究開発型の事業所でもあり、開発・設計に携わる技術者も約2割強在職しています。世界トップクラスのセンサー技術の研究や製品開発を行っており、製品試験においては巨大な試験設備を活用しています。

Q3： 「鋳造」から行っているのですか。

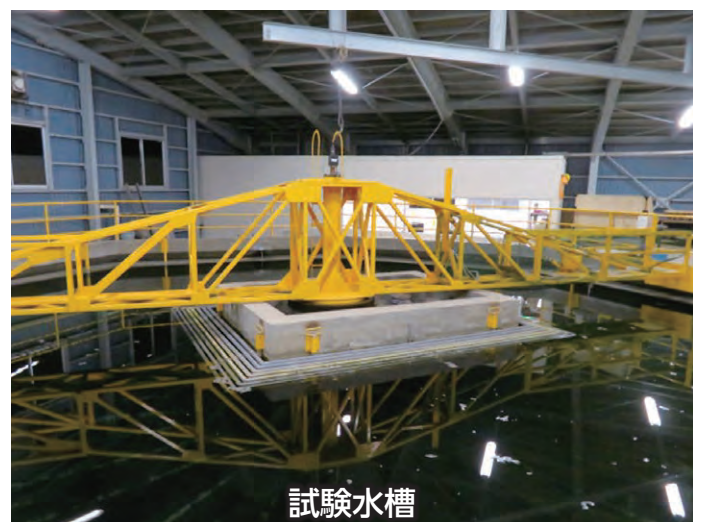
A3： 例えば、オートパイロットのフレーム部分等を鋳造で作っています。砂で作った型に金属を流し込んで成型します。鋳造から自社で行うことで、素材から物づくりができ、形状や大きさの自由度が高くなり、また、一貫生産により生産数の調整もしやすいことから多品種少量生産も可能になります。



岩田事業所長



佐々木課長



松島基地及び三沢基地航空祭で政策広報を実施

8月28日、航空自衛隊松島基地航空祭(宮城県東松島市)、9月11日、航空自衛隊三沢基地航空祭(青森県三沢市)において、東北防衛局の広報ブースを設置しました。

ブースでは、皆様に防衛省・自衛隊についてご理解をいただくため、防衛省・自衛隊の活動を紹介するパンフレットや防衛白書(パンフレット版)のほか、採用案内に関する各種資料を配布しました。

松島基地航空祭では、広報ブースに約480名の方にご来場いただき、「防衛白書」に関するクイズを実施し、参加者には記念品を、また、全問正解者には缶バッジやボールペンなどのオリジナルグッズをプレゼントしました。

三沢基地航空祭では、1,000名以上の方にご来場いただき、職員採用情報等を訪ねる方もいらっしゃいました。

東北防衛局は、今後も自衛隊記念行事等において、広報活動を行う予定です。
自衛隊の行事にご来場の際は、是非、当局の広報ブースにもお立ち寄りください。



防衛白書クイズに参加



お子さんにはシールもプレゼント



記念品の配付



大盛況の政策広報ブース

編集後記

表紙の写真は、宮城県岩沼市にある日本三大稲荷の1つにも数えられる竹駒神社社殿に掲げられた干支の「卯(う)」を描いた絵馬です。同稲荷には、みんなの願いを神に伝えるというこんなかわいい「白狐」もいますよ。

令和5年が、跳躍する「卯(うさぎ)」のように「飛躍・向上」する1年になるといいですね。

